

「劇場とは何か?」という根源的な問いに、舞台の内側から挑む。
舞台芸術の“創造と表現のプロセス”に光を当て、劇場の未来を描き出す。

Theatre
Workshop

幕^{まく}が上^あがる、 その前^{まえ}に

— 創造の舞台裏から劇場を探る —

ゲスト



舞台美術家

松井 るみ



舞台照明家

勝柴 次郎

日時

2026.09.24 木

19:00開始 18:30開場(休憩なし90分)

場所

P.O.南青山ホール

東京都港区南青山2-5-17
ポーラ青山ビルディング 地下1階
青山一丁目駅 から 徒歩2分
(東京メトロ銀座線・半蔵門線/都営大江戸線)



劇場を彩る空間と光。
その最前線を歩んできた二人が
今、劇場の未来を語る。

今回は、劇場という空間を創り上げる「美術」と
「照明」の視点から、「劇場とは何か」に迫ります。
舞台美術家・松井るみ氏と舞台照明家・勝柴
次郎氏は、長年にわたり演劇やミュージカル、
オペラなど数多くの舞台作品を手がけ、日本の
舞台芸術の第一線を走り続けてきました。

本セミナーでは、劇場の規模や構造、設備、そして
客席との関係性が、創作にどのような影響を
与えるのかを見つめるとともに、美術と照明が
どのように響き合い、一つの舞台空間を創り上
げているのかを探ります。

空間と光を通して見えてくる劇場の姿をひも
解きながら、表現者と観客が出会う「場所」
としての劇場の可能性と未来を考えます。

「劇場の未来」をともに描く90分に
ぜひご参加ください。

ホスト



戸部 和久(演出・脚本家)



中井 美穂(フリーアナウンサー)

料金

一般 3,500円

U-25 2,000円(開催当日に25歳以下の方)
※未就学児入場不可

チケット発売

8月19日(水) 10:00~

申込

イープラス

EventHub

HP



お問合せ

seminar@theatre-workshop.co.jp

ゲスト



松井 るみ Rumi Matsui

舞台美術家

多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。劇団四季を経てロンドンへ留学。帰国後、舞台美術デザイナーとして活動を開始する。2004年『Pacific Overtures』（宮本亞門演出）でブロードウェイデビュー、同作品で第59回トニー賞舞台美術賞にノミネート。2007年にはOISTATより“世界で最も名誉ある舞台美術デザイナー12人”に選出。タン・ドゥン作曲『TEA: A Mirror of Soul』（宮本亞門演出）ではオペラ界においてもアメリカ進出をはたす。さらに、2010年6月には『The Fantasticks』（宮本亞門演出）でロンドンのウェストエンドデビューを飾った。中国発のオリジナルミュージカルや、AKB48の5大ドームツアー、国立競技場公演のセットデザインをてがけるなど、活動の幅を広げる。2024年に劇団四季オリジナルミュージカル『ゴースト&レディ』（スコット・シュワルツ演出）開幕。これまでに美術を手がけた舞台は600作品以上にのぼり、2003年・2012年・2023年読売演劇大賞最優秀スタッフ賞、紀伊國屋演劇賞個人賞、伊藤薫朔賞、菊田一夫演劇賞ほか受賞多数。2019年秋の紫綬褒章受章。2015年より東京藝術大学の非常勤講師を務める。

近年の主な作品

『大地の子』、『メアリー・ステュアート』（演出 栗山民也）、『ISSA in Paris』、『うまい馬に乗ってこの世の外へ』（演出 藤田俊太郎）、『十二国記-月の影 影の海-』、『キングダムII-継承-』（演出 山田和也）、『黒蜥蜴』宝塚歌劇団宙組公演（演出 生田和和）、『新宿発8時15分』、『アメリカン・ドリーム』（演出 三谷幸喜）、『パレイドリア』（演出 鴻上尚史）、『ジン・ロック・ライム』、『レディエント・パーミン Radiant Vermin』（演出 白井晃）、『最後のドン・キホーテ THE LAST REMAKE of Don Quixote』（演出 ケラリーノ・サンドロヴィッチ）



勝柴 次朗 Jiro Katsushiba

舞台照明家

吉井 澄雄、沢田 祐二両氏に師事。

1975年～76年文化庁芸術家在外研修員として、欧米のオペラハウスにて照明技法とデザインを学ぶ。第1回オペラ『虎月伝』、第3回オペラ『カヴァレリア・ルスティカーナ』、『バリアッチ』にて日本照明家協会音楽部門賞受賞。第8回日本演劇協会賞受賞。第11回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞を『エリザベート』、『ニュルンベルク裁判』、『世阿弥』にて受賞。第23回日本照明家協会大賞、文部科学大臣奨励賞を『世阿弥』にて、第26回日本照明家協会大賞、文部科学大臣賞をオペラ『利口な女狐の物語』にて受賞。菊田一夫演劇賞 特別賞受賞、第43回日本照明家協会大賞、文部科学大臣賞をオペラ『メディア』にて受賞。

近年の主な作品

『DEAR EVAN HANSEN』（演出 小山ゆうな）、『欲望という名の電車』、『夜への長い旅路』（演出 フィリップ・ブリーン）、『るつぽ』、『ウェンディ&ピーターパン』（演出 ジョナサン・マンビ）、『ムサシ』（演出 蜷川幸雄）、『デズノート THE MUSICAL』、『ヘッダ・ガブラー』（演出 栗山民也）、『Endless SHOCK』（演出 堂本光一）、『千と千尋の神隠し』（演出 ジョン・ケアード）、『ラグタイム』、『天保十二年のシェイクスピア』、『ISSA in Paris』（演出 藤田俊太郎）

ホスト



戸部 和久 Kazuhisa Tobe
演出・脚本家

1984年東京都生まれ。日本大学芸術学部演劇学科卒業後、松竹株式会社に入社。歌舞伎を中心に脚本・演出・作詞を手がけ、古典と現代を融合した新作で注目を集める。代表作に『東海道中膝栗毛』シリーズ、『風の谷のナウシカ』（第48回大谷次郎賞受賞）、『幻想神空海』など。ラスベガス公演『鯉つかみ』やスケート歌舞伎『氷艶『破沙羅』』、史上初のオンライン歌舞伎『図夢歌舞伎 忠臣蔵』を企画。活動は歌舞伎にとどまらず、OSK日本歌劇団レビューやミュージカル『ツクヨミ～the moon～』『へば侍』など幅広い分野に及ぶ。2025年にはクラブカルチャーと伝統芸能を融合した『ZIPANGU the Party!!』を演出。片岡愛之助主演の新作歌舞伎『流白浪燦星（ルパン三世）碧翠の麗城』は、2026年を通じて、東京・名古屋・京都・福岡の4大都市でロングラン上演が行われている。最新作は、2026年7月8日スーパー歌舞伎『もののけ姫』。脚本を丹羽圭子氏とともに担当している。



中井 美穂 Miho Nakai
フリーアナウンサー

1987年日本大学芸術学部を卒業後、フジテレビに入社。アナウンサーとして「プロ野球ニュース」「平成教育委員会」など多くの番組に出演し人気をあつめる。95年フジテレビ退社。97年から22年まで「世界陸上」(TBS)のメインキャスターを務めた。現在は「タカラヅカ・カフェブレイク」(TOKYO MXテレビ)、「鶴瓶のズナシ」(TBS)、「華麗なる宝塚歌劇の世界」(時代劇専門チャンネル)、「アルバレスの空」(BSテレ東・ナレーション)等にレギュラー出演。その他、動画配信番組、イベントの司会、クラシックコンサートのナビゲーター、朗読など幅広く活躍している。がん患者支援団体NPO法人キャンサーネットジャパンの活動に賛同し、2018年理事に就任。がん啓発のイベントや市民公開講座の司会などの活動もしている。

幕が上がる、その前について

シアターワークショップが贈る劇場セミナー『幕が上がる、その前に』は、演出・脚本家の戸部和久と、舞台芸術を深く愛するアナウンサー中井美穂をホストに毎回ゲストを迎え、さまざまな視点から劇場の未来を探るトークシリーズです。

これまで建築や空間設計といったハード面に焦点を当ててきた劇場セミナー。本シリーズでは、舞台芸術の「創造」と「表現」のプロセスに光を当て劇場という“場”の価値を再定義します。脚本が立ち上がる瞬間、役者が魂を込める瞬間、観客の心が揺さぶられる瞬間——その裏側にある想いや仕掛けを紐解きながら、空間・建築・都市と劇場の新しい関係性を考える90分。舞台芸術を愛する人々から、劇場を創る人、都市をデザインする人まで未来の劇場を共に考える仲間を迎えます。



『天保十二年のシェイクスピア』(2020年)
美術：松井 るみ 照明：勝柴 次朗



『ISSA in Paris』(2026年)
美術：松井 るみ 照明：勝柴 次朗